

2025 年 4 月 25 日
ダイキョーニシカワ株式会社

「広島オープンアクセラレーター2024」協業先決定 ～スタートアップ企業 2 社と実証実験中～

ダイキョーニシカワ株式会社（広島県東広島市寺家産業団地 5-1、代表取締役社長 杉山郁男、以下 DNC）は、株式会社広島銀行（頭取 清宗 一男）と Creww 株式会社（代表取締役 伊地知天）が開催する「広島オープンアクセラレーター2024」において、以下のスタートアップ 2 社と協業し実証実験を進めています。

■協業先（50 音順）及び実証実験の内容

① **AC Biode 株式会社**（代表取締役社長 久保直嗣、本社 京都府京都市）

事業内容：廃プラスチック、有機廃棄物解重合触媒等の開発、各種吸着剤開発展開等

「ものづくりで発生する廃プラを、形を変えて再生利用～ゴミ 0 の世界を目指す！～」

「ゴミ 0 の世界を目指す！」という目標のもと、CO₂排出や資源循環に課題のあるサーマルリサイクル※¹からの脱却を目指し、AC Biode 社の触媒※²技術を活用した環境負荷の低いケミカルリサイクル※³の実証実験に着手しました。本実証では、DNC の製造工程で発生する廃プラスチックを分解し、回収したモノマーやガスを化学メーカーへ提供するリサイクルスキームの構築を検証しています。DNC の主要製品に由来する廃材を用いて、触媒分解による回収物の種類や収率を明らかにし、事業化に向けた可能性を評価しています。

※¹ サーマルリサイクル…廃棄物を焼却し、発生する熱をエネルギーとして利用する方法

※² 触媒…化学反応において自身は変化しないものの、特定の化学反応の速度を促進する性質を持つ物質

※³ ケミカルリサイクル…廃プラスチックを化学的に分解し、原料として再利用する方法

② **感性 AI 株式会社**（代表取締役社長 C E O 秋山正晴、本社 東京都調布市）

事業内容：ものづくり・ウェルネス分野の AI サービス提供、コンサルティングによる AI 開発

「オノマトペによる感性の可視化でつくる、人に寄り添う未来～AI を活用した健康管理～」

感性 AI 社のオノマトペ分析 AI を用いて、メンタル状況の現状把握と改善をレコメンドする「AI を用いたヘルスケアプラットフォーム」の開発を実現するため、感性 AI 社のβ版システムである「オノマトペを用いて感情を可視化し、個人の気持ちの状態をより詳細に把握するためのシステム」を使って、DNC の社員に対し日々の気持ちをオノマトペで記録する取り組みを実施します。オノマトペで表現した感性を可視化し、将来的には樹脂素材の開発や健康管理プラットフォームの開発に繋げ、人の健康に寄り添った未来の実現を目指します。

上記 2 件の実証実験の中間経過については、5 月 12 日（月）15 時～Hiromalab（広島市中区銀山町 3 番 1 号 ひろしまハイビル 21 17 階）にて開催される「『広島オープンアクセラレーター 2024』成果発表会」（主催：株式会社広島銀行、Creww 株式会社）にて発表予定です。

■「広島オープンアクセラレーター2024」の成果発表会開催について

<https://www.hirogin.co.jp/ir/news/paper/news250410.pdf>

【本件に関するお問合せ先】

ダイキョーニシカワ株式会社 経営管理本部
総務部 総務グループ
電話番号：082-493-5600

【補足資料】

■ 広島オープンアクセラレーター2024

HIROSHIMA OPEN ACCELERATOR 2024（広島オープンアクセラレーター2024）は、株式会社広島銀行とCrewww株式会社が協同で、広島県下のイノベーションエコシステムの構築に向けて、広島県内に新たな事業の創出を図ることを目的として実施しているプログラムです。参加する広島県内企業の多様な事業領域、豊富な経営資源と全国のスタートアップの特徴あるサービスを結びつけるオープンイノベーションにより、参加企業の新規事業創出を目指すものです。

■ 「広島オープンアクセラレーター2024」に参加しています

<https://www.daikyonishikawa.co.jp/topics/detail.html?itemid=205&dispmid=1180&TabModule1245=0>

ーダイキョーニシカワ株式会社 会社概要ー

広島県東広島市に本社を構える提案型の総合プラスチックメーカー。起源は 1953 年にさかのぼり、合併により 2007 年に西川化成（株）とジー・ピー・ダイキョー（株）の 2 社の DNA を継承した「ダイキョーニシカワ（株）」が設立。自動車樹脂製品および住宅樹脂製品の製造、販売を主な事業としており、軽くて加工自由度が高いプラスチックの特性を活かして機能性をさらに高めながらも、安全性・環境への配慮を欠かすことなく、より付加価値の高い製品をお届けすることで、社会に貢献しています。

以上